

授業科目	老年看護学概論		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	専任教員（老年看護領域臨床実務経験有）					
科目目標	1．高齢者の特徴である身体的、精神的老化現象や発達課題を述べることができる。 2．高齢者を取り巻く社会と保健福祉の動向について述べることができる。 3．高齢者の健康の目標、生きがい、QOLについて述べることができる。 4．日本の家族形態の変化をふまえ、介護家族の生活について述べることができる。 5．高齢者の人権、高齢者虐待の問題について述べることができる。 6．高齢者を理解し、生活を支援する老年看護の役割について述べることができる。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
	1	2	老いるということ	講義	専任教員	
	2	2	老年期の発達と成熟	講義		
	3	2	高齢者にとっての健康とQOL	講義		
	4	3	加齢に伴う変化と日常生活への影響 高齢者体験	演習		
	5	2	高齢者と家族	講義		
	6	2	高齢者と社会	講義		
	7	2	加齢変化に伴う日常生活への影響 加齢に伴う身体的変化と心理・精神的機能の変化 心身の加齢変化に伴う日常生活への影響	GW 発表		
	8	2	高齢者と社会	講義		
	9・10	4	高齢者保健福祉の動向と各施設の役割	講義		
	11	2	高齢者の権利擁護と倫理 ノーマライゼーション 老年看護の倫理 高齢者差別 高齢者虐待 安全確保と身体拘束 高齢者の権利擁護（アドボカシー）	講義 DVD 演習		
	12	2	高齢者の権利擁護と倫理 高齢者の人権と倫理問題について	講義		
	13	2	老年看護 老年看護の理念・目標・原則 自立支援とエンパワメント	講義		
	14	2	老年看護 高齢者の理解 援助する側としての姿勢	講義		
	15	1	終講試験	講義		
	評価方法	筆記試験 80 点 レポート課題 20 点				
評価基準	60 点以上で合格					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院					

授業科目	老年看護方法 I		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)	専任教員（老年看護領域臨床実務経験有） 非常勤講師（看護師） 看護師（NST〔栄養サポートチーム〕専門療法士）					
科目目標	1. 老年期にある対象者を生活機能の観点からアセスメントする意義を述べることができる。 2. 老年期特有の健康障害がある対象者へどのような治療が行われるか、またそのときの援助方法について述べるができる。 3. あらゆる健康段階にある老年期の対象者とその家族への看護について述べるができる。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
	1	2	高齢者のヘルスアセスメント 1.高齢者のヘルスアセスメント 2.高齢者のフィジカルアセスメント 3.高齢者総合的機能評価（CGA） 4.高齢者のヘルスケアシステム	講義	専任教員	
	2	2	高齢者の日常生活を支える基本的活動 1.日常生活活動のアセスメント 2.高齢者の転倒 3.廃用シンドローム	講義		
	3	2	高齢者の日常生活援助：食事 高齢者の食事の特徴と看護ケア	講義		
	4	2	高齢者の日常生活援助：排泄 高齢者の排泄の特徴と看護ケア	講義		
	5	1	「オムツ交換の方法」	演習		
	6	2	高齢者の日常生活援助：清潔 生活リズム 高齢者の衣生活、清潔の特徴と看護ケア 高齢者の生活リズムの特徴と看護ケア	講義		
	7	2	高齢者の日常生活援助：コミュニケーション 高齢者のコミュニケーションの特徴と看護ケア	講義		
	8	2	高齢者の日常生活援助 援助計画の発表 「高齢者の食事介助」 「高齢者のトイレ介助」 「高齢者の入浴介助」	講義		
	9	2	高齢者に多い症状と看護 発熱、痛み、痒み、脱水、嘔吐、浮腫、倦怠感のアセスメントメカニズムと看護のポイント	講義	非常勤講師	
	10	2	排尿・排便障害がある高齢者への看護 排便・排尿障害がある高齢者の特徴とアセスメント	講義		
	11	2	提供する看護において留意・配慮すること			

	12	2	低栄養状態にある高齢者への看護 栄養状態を老年期の特徴をふまえてアセスメント 対象にとって適切な栄養管理と看護	講義	看護師 (NST 専門 療法士)
	13	2	検査を受ける高齢者と家族への看護 高齢者が受けることの多い検査と検査結果のアセスメント 円滑な検査実施への援助	講義	非常勤講師
			薬物療法を受ける高齢者と家族への看護 加齢に伴う薬物動態、薬物による有害反応と特徴 高齢者の薬物管理、与薬、内服管理、介助方法 薬に対する看護職の責任	講義	
	14・15	4	手術療法を受ける高齢者と家族の看護 高齢者の身体的特徴をふまえた麻酔による生体反応 術前のアセスメント:栄養状態、既往歴、ADL、家族の サポート体制 高齢者の特徴をふまえた術前・術後の観察と看護 高齢者の特徴をふまえた術後合併症とその予防	講義	非常勤講師
	16	1	終講試験		
評価方法	非常勤講師 筆記試験 50 点 (非常勤講師 40 点 + 看護師 10 点) 専任教員 50 点 (筆記試験 35 点 レポート課題 15 点)				
評価基準	60 点以上で合格				
テキスト	系統別看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統別看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 山田律子他 生活機能からみた老年看護過程 + 病態・生活機能関連図 医学書院				

授業科目		老年看護方法Ⅱ		単位数	1	時間数	30
担当講師 (実務経験)		専任教員（老年看護領域臨床実務経験有） 看護師（認知症看護認定看護師） 看護師（慢性疾患看護専門看護師） 看護師（整形外科、救急科病棟実務） 看護師（皮膚排泄ケア認定看護師） 看護師（緩和ケア認定看護師）					
科目目標		1. 老年期の疾患・疾病の経過の特徴を理解し、老年期特有の看護問題と対応の方法を学ぶ。 2. 老年期にある対象のエンドオブライフケアについて考え、「苦痛の緩和とその人らしく最大限に QOL を保ちつつ最期を迎えるための看護とは」について学ぶ。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
認知機能	1	2	1. 認知機能に障害のある老年期の患者の看護 1) 認知症看護の原則 2) 認知症がある老年期の患者とのコミュニケーション、意思決定支援 3) 認知症がある老年期の患者の環境調整	講義	認知症看護 認定看護師		
	2	2					
	3	2					
	4	2	2. せん妄を発症した老年期の患者の看護 1) せん妄を発症した老年期の患者の看護 2) せん妄と認知症の鑑別	講義	認知症看護 認定看護師		
呼吸	5	2	3. 呼吸機能に問題のある老年期の患者の看護 1) 老年期に生じやすい呼吸機能障害 2) 肺炎に罹患した老年期の患者の看護	講義	看護師		
	6	2					
運動器	7	2	4. 運動器の機能に障害のある老年期の患者の看護 1) 大腿骨頸部骨折患者の看護 2) 術後の脱臼予防・禁忌肢位への援助	講義 演習	整形外科、 救急科病棟 看護師		
	8	2					
褥瘡	9	2	5. 老年期にある対象への褥瘡の予防と看護 1) 褥瘡発症のリスクと予防対策 2) 褥瘡がある老年期の患者の看護 3) 褥瘡処置の方法（創洗浄）	講義 演習	皮膚排泄 ケア認定 看護師		
	10	2					
	11	1					
エンドオブライフケア	12	2	6. 老年期にある対象のエンドオブライフケア 1) エンドオブライフケアの概念 2) 全人的苦痛とは 3) 老年期の対象の尊厳を守るための支援 4) 末期段階に求められる援助 5) チーム医療の重要性と看護師の役割 6) グリーフケア	講義	緩和ケア 認定看護師		
	13	2					
	14	2					
医療施設	15	2	7. 医療施設における老年期患者の看護 1) 介護老人福祉施設 2) 介護老人保健施設	講義	専任教員		

	16	1	試験		
評価方法	筆記試験 100 点（認知機能 35 点、呼吸機能 14 点、運動機能 14 点、褥瘡 16 点、エンドオブライフケア 14 点、医療施設 7 点）				
評価基準	60 点以上で合格				
事前課題	◆「認知症・せん妄」の講義における事前課題 「精神の機能と疾病論」で定義・機序について学習しているので、その内容を復習しておくこと（その時の講義資料を授業には持参すること）。 ◆「エンドオブライフケア」の講義における事前課題 成人看護学概論で学んだことを振り返り、自分の考えを持って講義に臨むこと（レポートを課すことも考慮） ・人生の最期とは／人間にとっての死とは／全人的苦痛とは				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院				

授業科目	老年看護方法Ⅲ		単位数	1	時間数	15
担当講師 (実務経験)	専任教員（老年看護領域臨床実務経験有）					
科目目標	1. 老年看護における看護過程の特徴が理解できる。 2. 事例を通して、人生の終末の時期にある老年期の患者の看護過程の展開方法を習得する。					
	回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
	1	2	老年看護過程 1. 老年看護過程とは 2. 事例紹介 人生の終末の時期にある老年期の患者の看護	講義	専任教員	
	2	2	共同問題 1. 共同問題とは 2. 共同問題の立案方法	講義 GW		
	3	2	共同問題 1. 立案した共同問題をグループ発表 2. 発表内容を振り返り、共同問題を立案し活用する意義を考える	演習 GW		
	4	2	看護計画 1. 看護診断、診断指標、関連因子について 2. 計画に基づいた看護実践と評価について 3. 事例を展開し看護計画を立案	講義 演習		
	5・6	4	看護計画 看護計画の立案（グループワーク）	演習 GW		
	6・7	2	看護計画 1. 立案した看護計画をグループ発表 2. 発表内容を振り返り、計画を立てたことを臨地での実践にどう活かすか考える（実習に臨むにあたっての事前課題を考える）。	演習		
	8	1	終講試験			
評価方法	筆記試験 55 点 演習課題 45 点					
評価基準	60 点以上で合格					
事前課題	老年看護方法Ⅱで学習したエンドオブライフケアについて復習し、人生の終末の時期におけるケアにおいて求められることについて自分の考えを整理して講義に臨む。					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院					